

審 議 会 等 の 会 議 結 果 報 告 書

		課所名	健康推進課
会 議 名	令和 7 年度 第 3 回 諏訪市食育推進計画専門委員会		
開催日時	令和 7 年 10 月 28 日（火） 午後 3 時 30 分 ～ 午後 5 時 05 分		
開催場所	諏訪市保健センター2 階 多目的ホール		
出席者	<p>（出席者）</p> <p>【食育推進計画専門委員会】</p> <p>藤森恵子委員長、 伊藤美保副委員長、 宮坂智明委員（代理）担当職員、 武居彩幸委員、 名取里佳子委員、 向山真由美委員、 小林裕子委員、 牛山美恵子委員、 林 幸子委員</p> <p>【庁内関係課】</p> <p>長島一幸教育総務係長、 玉井常泰高齢者福祉係長、 伊藤恵梨子保育係主査、 藤森 秀農業振興係長、 花岡真弓農業振興係会計年度任用職員</p> <p>濱 秀憲健康推進課長、 矢澤祐美健康予防係長、 小口直子健康支援係長、 笠原和洋健康予防係主査、 吉田祥子健康予防係主査、 草間裕美健康支援係主査、 市川結菜健康支援係主事</p>		
資料	別添		
協議議題（内容）及び会議結果（要旨）			
1. 開会（健康予防係長）			
2. 委員長あいさつ（藤森委員長）			
本日の会議は健康すわプラン 2026 の計画の内容を決めていく会議となる。活発なご意見をいただくよう、よろしくお願いしたい。			
3. 健康推進課長あいさつ			
本日はお忙しい中、ご出席ありがとうございます。前回 8 月に開催した専門委員会では、健康意識アンケート調査結果の概要、次期計画に向けた体系等についてご協議いただいた。本日は、アンケート調査に基づいた食育推進計画案についてご協議をお願いしたい。			
今回のアンケート結果で明らかになった課題は大きく 3 つある。1 つ目は、多くの年代で肥満児、肥満者が増加傾向にあり、一方で、高齢者の低栄養傾向の割合も増加していること。2 つ目は、食に対する意識を高めることが引き続きの課題であり、適切な知識や食育に対する理解を深める場が必要であること。3 つ目は、地域の特産品や伝統食材を活用した郷土料理などを積極的に提供し、地産地消を推進し、持続可能な食にかかる環境づくりに取り組むことが重要であることと考えている。次期計画の策定に向け、委員の皆様がそれぞれの立場からご意見等をいただくようお願い申し上げます。			

4. 議事（進行：藤森委員長）

（1）諏訪市食育推進計画案について

・基本目標 1：食を通じて健康なからだをつくる

■事務局より説明

健康すわプラン 2026（案） （1）栄養・食生活

■質疑応答・意見

【委員】P. 32 の目標指標について、「朝食をバランスよく食べている人の割合」の高校 2 年生の現状値が低い。生徒は毎日忙しい日々を過ごし、朝練のために途中でおにぎりを食べる生徒もいる。朝食を食べてくる生徒も、ご飯と味噌汁だけで、バランスよく食べられていない。食べるより寝ていたいため、朝遅くまで寝ている生徒も多いことが数字に出ていると感じた。

【委員】P. 21 と P. 51 について、目標達成状況の D「悪化」という言葉だが、A「達成」に対し、反対の意味であれば、「未達成」などがよい気がする。P. 51 の現状と課題でも、「5 歳児と小学 5 年生では悪化しています」とあるが、これについても、「減少」や「低下」、「未達成」という言葉が適切ではないか。

【事務局】計画作成の委託業者へ相談したが、評価基準としては、A「達成」、B「改善」、C「変わらない」、D「悪化」になるとのことだった。P. 51 の文章での表記については、「悪化」ではない「減少」などの言葉で表現したい。

【委託業者】今回の健康すわプランは、健康づくり計画、食育推進計画、自殺対策計画の 3 つの計画で構成されている。県や国の計画を基に作成しており、指標の考え方についてもベースにしている。「悪化」という表現はどうしてもネガティブなイメージになることは分かるが、県の評価指標では「悪化」と表現している。また、指標によっては減少したほうがよいという指標もあり、例えば、喫煙率については減少がよいこともある。再度、他市町村計画等も参考にし、何かよい表現がないか確認したい。

【副委員長】P. 30 地域の取組で、「食生活改善推進員の活動において」は、食改を対象としているか。

【事務局】そのとおり。

【副委員長】食改は年々人数が減っているため、人数を増やし活動するなど入れてほしい。食改員がいなければこの取組は成り立たない。

【事務局】1 つの団体に限定せずに記載する等、5 年計画で成り立つような内容で記載したい。

【委員】P. 30 地域の取組について、団体が知識や技術を学習することは団体の取組と捉えられる。団体が料理教室を開催し、市民へ普及啓発していくなどの書き方がよいのでは。

【事務局】そのような表記を検討したい。

・基本目標 2：食への関心・感謝の心を育む

■事務局より説明

健康すわプラン 2026（案） 5 章食育推進計画

■質疑応答・意見

なし

・基本目標3：諏訪の食を育み、環境を守る

■事務局より説明

健康すわプラン 2026（案） 5章食育推進計画

■質疑応答・意見

【委員】1点目、P. 54 現状と課題で、「地域住民や観光客にアピールすること」とあるが、観光客について指標として何か図るものがあるのか、市の食育推進計画で観光客へのアピールをすることはどう考えるか。「料理を積極的に提供」についても、ほかの課との連携があるのか。2点目、P. 55 地域の取組が7項目挙げられているが、関連性のある内容については、まとめて記載するのはどうか。

【事務局】観光客については市外の方になるため、表記について検討したい。地域の取組については、関連する内容はまとめて記載したい。

【委員】食品ロスが出た後は何か取組をしているか。

【事務局】食品ロスが出た後のごみの削減については、市の環境課で取り組んでいる。P. 55 行政の取組に、「ごみ処理機の活用について普及啓発すること」を新たに目標設定しており、今後関係課と情報共有していきたい。

【委員】1点目、P. 55 目標指標の小・中学校で「郷土料理を知っている人の割合」が低いのは、回答が記述式だからと理解した。今後同じ内容で年度ごとに比較すると思うが、次回同じアンケートをして、目標の62%、76%までもっていけるのか。次の結果も同じく低い値になるのではないか。2点目、P. 57 ライフステージに応じた食育の推進で、「もったいないの気持ちを持ち、食べ残しや食品の廃棄を減らす」とあるが、「残った物は全部食べましょう」と誤解して捉えられるのではないか。保育園や学校では、「定量を絶対に食べましょう」ではなく、「自分の食べられる量を食べましょう」という考え方をしている。これは食品ロスの観点であり、栄養が足りているかの観点になると少し違うが、例えば、「食のありがたみが分かる」や、「自分の食べられる量をきちんと意識して食べる」ことが、食品ロスの削減につながるのではないか。

【委員】P. 52 個人・家庭の取組で、「子どもの頃から、食べ残しはもったいないと思う心を培う」とあるが、「食べ残しは無駄を生んでしまうと思う心を培う」など、直接的な表現はどうか。作ってもらったものをありがたくいただくこと、食べ残しは無駄を生むことを書くことよいのでは。「もったいない」は捉え方の幅が広いため、無駄を生まないという言葉に変えると分かりやすい。P. 57 ライフステージに応じた食育の推進について、今の小学生は、まず自分に見合った量を知らず、給食の時間に残った物をたくさん盛るが食べられない、また、おやつをたくさん食べているのか、給食は少ししか食べないが、体格がよいなど、偏食傾向であると感じる。「偏食による食べ残しや自分に合った食事量を知ることで廃棄を減らす」などの表現がよいのではないか。

【事務局】「もったいない」は、県や市の現行計画で記載があるため、それに倣って入れたが、そのような考え方や捉え方があると分かった。ほかの観点も踏まえた上で、表現の方法を改めて検討したい。P. 55 目標指標の「郷土料理を知っている人の割合」について、小・中学生の目標値の設定についてご意見いただきたい。

【委員】アンケートを実施する前に、子ども達へ郷土食について伝えているが、結果に表れないことが分かった。郷土食、地場産物という言葉を理解しているのかは個人差もあるが、目標値についてはもう一度考えたい。

5. その他（健康予防係長）

健康すわプラン 2026 案として、12 月中旬頃よりパブリックコメントを実施予定である。その前に、修正した計画案について委員の皆様にご覧いただきたい。次回の専門委員会は、令和 8 年 1 月 23 日、15 : 30 から開催予定である。委員の皆様には、ご多忙のところ恐縮ではあるが、ご理解とご出席をお願いしたい。

6. 閉会（伊藤副委員長）

今後、市民の皆様が健康で生き生きと暮らせる社会が実現できるように、この計画が推進されることを願っている。パブリックコメントに向けて、よりよいものができるのではないかな。本日はありがとうございました。

（午後 5 : 05 終了）